

ワークショップにおける議論のテーマ 「ごみの一生とリサイクルの推進について」

行政評価委員会における評価対象の選定理由

ごみの収集・処理は、基礎的な自治体の行政サービスであり、市民の誰もが日常生活の中で密接に関係しています。

これまでを振り返ると、生活が豊かになり、大量生産・大量消費社会の中で、ごみ排出量が増大し、埋め立て地の不足やごみ処理コスト・エネルギー消費の拡大など、様々な問題を生じてきました。

そのような中、全国的にも、ごみ処理費用の有料化が導入されはじめ、ごみの減量に一定の成果をあげてきています。

今後とも、ごみの減量を継続し、処理費用の低減と分別など市民の協力が得られるような、ごみの収集・分別・処理・リサイクルの将来的な方向性について、市民意見を踏まえて、議論をすることが大切と考え、ごみ処理の流れとリサイクルの推進に関連する施策・事業を行政評価委員会として評価対象に選定しました。

ワークショップにおける議論のテーマ選定理由

札幌市では、ごみの減量、リサイクルの推進のため、平成 21 年 7 月から家庭ごみの処理費用の一部有料化と分別区分の変更を実施し、市民の皆さんの協力により、焼却ごみの大幅減量を達成し、清掃工場1カ所を廃止することができるなど、一定の成果を挙げてきています。

しかしながら、ごみの減量効果も、市民の皆さん自らの意思による継続的な取組がなければ、薄まっていくことが懸念されますし、家庭から出る廃棄ごみ量の削減とリサイクル率のより一層の向上が課題となっています。

今後も、環境負荷を低減し、環境にやさしい札幌のまちづくりを進めていくためには、札幌市の取組とともに、市民一人ひとりの日々の工夫・行動などの協力が不可欠になります。

これからのごみ処理等とリサイクルの推進について、ごみの収集・分別・処理・リサイクルの流れを踏まえた上で、その課題や目指すべき方向性について市民の皆さんと共有し、札幌市と市民の皆さんと一緒に取組を進めていくことを目指して、『ごみの一生とリサイクルの推進について』としました。

ワークショップの進め方（予定）

【前半の議論のポイント】

- 「新ごみルール」を実施して以降、市民の皆様のご協力により、札幌市のごみ量は大幅に減少しましたが、「スリムシティさっぽろ計画」に掲げたごみ量の管理目標のうち、「家庭からの一人一日あたりの廃棄ごみの量」と「リサイクル率」については未だ達成していない状況です。
- これらの目標達成に向けては、「燃やせるごみ」の半分を占める生ごみの更なる減量と、未だ「燃やせるごみ」に多く出されている資源物を適正排出できるように促していくことが必要であると考えております。
- そこで、市民の皆さんがご家庭で生ごみの水切りや堆肥化、資源物の分別などに取り組む際に、どのようなことがハードルとなっているのか、日常生活の実感をもとにお聞かせください。

【後半の議論のポイント】

- 前半の議論を踏まえ、市民の皆さんが家庭で行うことができる効果的なごみ減量・リサイクルの取組としてどのようなものが考えられるでしょうか？
- そうした取組の効果や取組に参加する市民の拡大に向けて、どのようなことが必要と考えられるでしょうか？
- また、そのような市民の取組に向けて、札幌市はどのような支援を行っていく必要があると考えられるでしょうか？

平成25年度 札幌市行政評価委員会委員

委員長	吉見 宏	北海道大学大学院経済学研究科 教授
副委員長	山崎 幹根	北海道大学公共政策大学院 教授
委員	石川 信行	石川公認会計士事務所 公認会計士・税理士
同上	太田 明子	太田明子ビジネス工房 代表
同上	林 千賀子	北海道ひびき法律事務所 弁護士

I 環境低負荷型資源循環社会（都市）の実現に向けて

現代社会に生きる私たちは、産業や経済の発展によって物質的な豊かさと利便性を求めるがために、限りある資源とエネルギーを大量に消費してきました。

そうして生まれた「大量生産・大量消費」型の社会は、使い捨ての生活スタイルを助長するなど物質循環を断ち、大量のごみを発生させる結果を招くこととなりました。

こうした中、国は、循環型社会形成推進基本法を制定（平成 13 年 1 月施行）し、限りある資源を持続可能な形で循環させながら環境への負荷を低減させる“循環型社会”の形成に向けて、できる限り排出を抑制（Reduce）し、廃棄物となったものについては、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）を行い、それでもなお排出されるごみについては、焼却処理や埋立処分をするなど適正に処理する方向性を示しています。

さらに、札幌市では上記の 3R に、そもそもごみを発生させないという発生抑制（Refuse）を加えた 4R の取組を進めています。

かけがえのない地球環境を守るため、私たち一人一人が自覚し、積極的に 4R を実践することで、生活の無駄を省き、限りある資源やエネルギーを有効に使う“環境低負荷型資源循環社会（都市）の実現”を目指していく必要があります。

ごみを減らすためには一人ひとりの行動が大切。
4つの「R」で、ごみダイエットをしよう！

Refuse リフューズ
ごみになるものは「断る・買わない・持ち込まない」

たとえば…

- マイバックを持参しよう
- 詰め替え用商品を利用しよう

スーちゃん

Reduce リデュース
無駄をなくして「ごみを出さない・作らない」

たとえば…

- 日用品や食材は無駄なくとことん使い切ろう
- ものは大切に長く使おう

リーちゃん

Reuse リユース
捨てる前にもう一度考えよう

たとえば…

- 壊れたものは直して使おう
- レンタルやリースを賢く利用しよう

ムーちゃん

Recycle リサイクル
捨て方次第で、ごみが資源に

たとえば…

- ごみは正しく分別しよう
- 集団資源回収に出そう

シティーちゃん

II 「スリムシティさっぽろ計画」進ちょく状況

1 「スリムシティさっぽろ計画」の策定

(1) 家庭ごみ有料化の検討に至った背景

- 家庭ごみ量は平成 10 年度以降、50 万トン弱と横ばいの状況で推移
- 清掃工場の老朽化、埋立地のひっ迫
- 札幌市財政構造改革プラン（H16.12）において、「受益者負担の視点から、家庭ごみ処理手数料について十分な議論を行うとともに、審議会に諮り検討すること」との提言

(2) 計画の策定経過

年月	策定経過
H17. 4	札幌市廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみ有料化の実施の是非を含めた一般廃棄物処理基本計画の改訂」について諮問
H19. 3	同審議会から「具体的なごみ減量施策や、不適正排出の防止、減免制度などの配慮すべき事項を確実に実施することを条件として、家庭ごみの有料化を提案していくべき。」との答申
H19. 9	「スリムシティさっぽろ計画」（素案）の策定
H19. 10～H20. 2	パブリックコメント、市民意見交換会、市民意識調査等により市民意見を把握
H20. 3	「スリムシティさっぽろ計画」の策定

(3) ごみ量管理目標

